# 2024　白鳥中学校校内研修計画

## 1　主題「互いに支え合い，ともに高め合い，活動できる生徒の育成」
～1 人ひとりを認め、寄り添う関係を目指して～

## 2　主題設定の理由

### 地域・家庭・生徒の特性

【地域・家庭の特性】
〇挨拶や行事に取り組む姿勢に対して，学校運営協議会の方々による理解，評価，がある。
〇地域の方々の協力がある。（挨拶運動、ボランティア活動）
〇家庭との意思疎通ができている。（「家の人は，わたしの考えや気持ちをわかろうとしてくれる」：87%）

【生徒の強み】
〇挨拶ができる。（「家や近所で挨拶をしている」：92%）
〇優しく，素直である。（「人が困っているときは，進んで助けている」：92%）
〇働きかけると頑張ろうとする。（「自分もやればできるという思いをもっている」：85%，「やると決めたことは最後までやり通す」：84%）
〇教師の思いが伝わる生徒が多い。（「先生は良いところを認めてくれていると思う」：94%，「学校の先生は，勉強や学校生活について，きちんと指導してくれる」：95%）
【生徒の弱み・課題】
〇家庭学習が不十分である。（「学校のある日に家でどのくらいの時間勉強しているか」ほとんどしていない～30分以内：45%）
〇読書量が少ない。（「学校の授業以外で、10分以上読書をしている」：45%）
〇読解力，自らを表現する力，自ら課題を探求し解決する力が弱い。

※数値は、「安心して学べる学校アンケート」生徒回答のもの。

### 学習場面での生徒や教師の意識

〔生徒回答〕 数値比較は市内平均との差（令和 3 年度実施）
〇「めあて」があると授業が分かりやすくなる　+1.8p
〇授業の最後に「ふり返る」時間があると何を学習したか，何ができるようになったか，自分で確認することができる　+0.7p
〇授業中，自分の考えと比較しながら，友達の考えを聞いている　+1.3
〇授業では，自分の考えや疑問を発言しやすい雰囲気がつくられている　−1.4p
〔教師回答〕
〇授業の中で，本時の「めあて」を生徒に明確にしている　−4.8p
〇授業の中で，生徒が本時で何を学習したか，何ができるようになったか，自分で確認できるような「ふり返り」を設定している　−6.1p

生徒の強みや，家庭・地域の特性から，生徒は前向きで頑張れる姿勢があり，地域の大人や教師との信頼関係も築けている。また，学習面においても，生徒は日々の授業の中で学びの実感を持ったり，仲間との関わり合いをもったりすることができている。しかし，アンケートの結果から，授業の中で，「めあて」の提示と「ふり返る」活動の実施において，生徒と教師の意識のずれが生じていることが明らかとなった。また，学習する環境において，他者との関わりやすさや発言のしやすさにおいて課題が見られた。これらを学校の課題としてとらえ，学習する環境づくりを教師・生徒ともに作っていきたいと考えた。

## 3 目指す子どもの姿

〇「支え合う」と「高め合う」を、次のように定義します。

| 支え合う | 高め合う |
|---|---|
| ・傾聴の姿勢をもって，対話的・協働的な活動ができること。<br>・対話的・協働的な活動を通して，課題解決に臨むこと。 | ・学び合いを通して，他者の考えを理解し，互いの考えを広げ深められること。<br>・協働的な学びを通して，情報を精査し，自分の考えをもつこと。 |

〇「支え合う」と「高め合う」目指す子どもの姿を、次のように設定します。

| 支え合う姿 | 高め合う姿 |
|---|---|
| ・相手の意見を聞き，受け入れ，認めながら，自分の意見を伝えることができる。<br>・課題解決に向けて，それぞれが，これまでに得た知識などをもとに，自分の考えを言葉や図など、様々な方法を使って伝えることができる。 | ・話し合い活動などを通して，自分の考えを見直したり，他者と比較したりする中で，新たな考えをもつことができる。 |

〇各教科において，教科の見方・考え方をふまえ，昨年度までの実践をふり返って，“目指す子どもの姿”を具体化します。

## 4 重点項目

① 研究授業や公開授業の実施，日々の授業改善【授業力 UP5★の5つの視点をもとに】
② 学力向上委員会と教科部会，研修部との連携(『全国学力・学習状況調査，みえスタディ・チェックの分析』を通して)
③ 各学年部で家庭学習の充実(授業と家庭学習の関連付け，一人一台端末の活用も併せて)
④ 生徒の主体性・自己肯定感を育む学校活動の実践(体育祭・文化祭・学級活動を通して)
⑤ 生徒指導，教育相談，人権教育，道徳教育などの教員研修の実施

## 5 校内体制

①授業改善
・「めあて」と「ふりかえり」の質の向上
・わかる・伝える授業の実践(「授業力 UP5★」に沿って)
・授業のユニバーサルデザイン(視覚支援、指示の見える化など)
・研究授業，公開授業，校内授業公開期間等教員間での情報共有
・ICT 機器の活用と研修

『目指す子どもの姿』の実現

② 学力保障，家庭学習
・1，2 年生：一人一台端末を活用した家庭学習の実施(アプリケーション内ドリルの活用，ポートフォリオやスライド作成など授業内容とリンクした課題)
・3年生：朝の学習への取組
・放課後学習の実施
・長期休みの補充学習の実施
・テスト計画表の作成，ノーメディアデーの実施

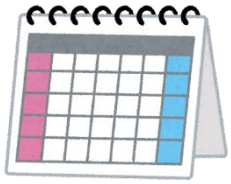
③ キャリア教育
・生き方学習（外部からの講師を招聘）
・進路学習（各学年で計画的に実施，職場体験学習の実施）
・キャリアパスポートの活用

④ 生徒指導，教育相談体制の充実
・人とのかかわりを大切にする学校生活の充実（あいさつ運動，学級づくり，小グループの活用）
・自立，公共心，社会貢献を育む取組（学校行事，部活動などを通して）
・年間3回　いじめアンケートの実施と即日対応
・年間3回　教育相談アンケートと教育相談期間の実施
・教員の生徒指導研修
・（鳴門教育大学連携）鈴鹿市アンケート
・携帯電話・SNS の利用や，犯罪防止についての出前授業（外部からの講師を招聘）

⑤　特別支援教育
・すずっこファイルの作成と活用
・引き継ぎ支援会議の実施
・小中連携ケース会議の実施
・家庭及び関係機関との連携や講習会の実施
・教員の教育相談・特別支援教育に関する研修
・特別支援教育やユニバーサルデザインの視点をふまえた授業づくり
・レジリエンス教育の充実（年間6回程度のプログラムに基づき実践）

⑥ 人権教育
・年間計画に基づく授業の実践，年度中に複数回の公開授業
・校区人権フォーラムの推進，いじめ防止標語の取組
・人権作文の取組
・人権フォーラムへの取組

## 6 年間計画 ※別紙



## 7 公開授業について
① 年間3回の公開授業（人権教育の授業もしくは道徳）
② 校内公開授業期間の設置（各教科の授業）